勞働黨の思ひ出（三）

チャーチルと勞働黨

[illegible]立した勞働黨が出來ると共に、自由黨側の批評家も保守黨側のも、固よりソレを批難する譯には行きませぬ、彼等は夫々惡口雜言を[illegible]しました、そして同時に勞働黨が、徒に如何はしい社會主義者に操られることは、決して其の目的を達する所以ではないこと、其の所謂如何はしい社會主義者達は、總て行狀が不信で、詐欺師であることを述べて、勞働黨を戒めたのであります、社會主義者の多くは必ずしも[illegible]の人でもなく、又眞面目に國政を議し得る人でもないから、勞働黨の主義、政綱を所行する爲めに、單に夫等の人達に頼るのは、心細い限りであらう――と云ふのであります。

[illegible]勞働代表委員會が出來たのは其後千九百年の事でした、ソレは勞働組合、同業者[illegible]主義者[illegible]に消費組合の[illegible]成立つた[illegible]は絶對に自由黨又は保守黨の候補者と[illegible]を取らず、勞働問題に對して獨立の政策を標榜して協同一致代表[illegible]候補の當選を期せやうと云ふの[illegible]あります、斯くて此の委員會は成立[illegible]第一選擧に對して五十人の候補者を立てたのでしたが、其の中廿九人の當選を得、落選者の總得票數七万票に上つて居ります、炭坑夫組合は此の選擧に於ては、前記代表委員會の協同に加はらず、大部分は自由黨と協同して、從よりも多數の候補者を立てました、然し其の結果、十五人の當選を見ましたのは寧ろ不成績と云ふべきで、而も折角當選した候補者は、却つて自由黨よりも代表委員會と提携を保つた者があります、[illegible]ンドルフ[illegible]チャーチル卿は當時一黨の或候補者に[illegible]云ふ手紙を書いて居ります[illegible]會は目下極めて重大な[illegible]して敎訓的運動をやつて居る、彼等は政黨政治の單なる機械的作用とは、大に異つたものを示さうとして居る、彼等は現在英國の何れの政黨にも屬しない獨特の勢力を持つて居ることを立證して居る、而も目下の彼等の運動は、資本乃至[illegible]得の分配、勞銀と云ふ事よりも、寧ろ其の有する政治的勢力を實際に活用しやうと云ふ風である、勞働者は今や地主又は製造業者等が、自ら其の利益を擁護したやうに、勞働者自ら其利益を擁護するのである――と、チャーチル卿は更に其の手紙の終りに――我等は各種の勞働法規が、勞働者の利益の爲めに、勞働者の利害を代表する人々に依つて制定せらるゝ時期に達した、或は急速に其時期に達しつゝあるのである――と、書き添へました

多くの人々が、勞働代表委員會の候補者五十人の中、恐らく極少數がモノに成るくらゐであらうと想つて居たのに對して、流石にチャーチル卿の炯眼は、社會一般の傾向と勞働社會の機運とを見のがさなかつたのであります、ソレでも然しチャーチル卿の『勞働法規が勞働者の利益の爲めに』と云ふ一句に對しては、當時の勞働代表委員會は決してソレを訂正せずには受け入れませぬ、彼等はチャーチル卿の誤解としてソレを批難するのであります、即ち新運動は單に雇主を無視して、勞働者階級の天下を現じようとは思はぬ、實に協同主義の下に社會を改善したいのである、其目的は偶ま勞働者階級の爲めではあるが、結局は國民の爲めであると、辯じて居るのであります、同時に又彼等は或は特に中流階級の候補者を立てたとの批難に對しても、決してソレは事實ではない、勞働代表委員會の候補者五十八人中、中流の候補者は僅に一二人に過ぎないと言つて居ります、ソレは即ちウエークフィルドのスタントン・コイト氏とブラックボーンのスノーヅン氏とであります。

正誤、昨紙本欄第四段第一行、彼等は早くも二千は二十の誤

勞働黨の思ひ出（五）

保守黨の眞相

保守黨の古くからの傳説は、果して自由主義の記録と、相並んで居るであらうか、同黨百年の歴史を回顧する人は、何人も割引なしに、ソレを信ずる事は出來ませぬ本來保守黨は封建制度的であつたのであります、彼等は正直に金持ちは城主、貧乏人は門番と考へて居たのであります、即ち貧乏人が一向不平もなく、何時までも門番で滿足して居たならば、保守黨の理想する典型的、模範的王様は、相當に貧民どもを養ひ、貧民どもに着せ、そして又彼等を住まはしたのであらうが、ラスキンが言つた通り、生憎地主達は保守黨の[illegible]つて居る樣には爲らず、却つて多く專制的であります、而もソンは又[illegible]も仁慈もない黄金色の[illegible]つた――と云ふのが、保守黨に對する冷評者の言葉であります、殊に自由黨側に言はせると、保守黨の哲學は貴族の支配人と支配せらるゝ庶民とを認めます勢ひ其の貴族達は男女老幼の生命と安寧とに對して、責任を有するものとして居ります、斯くの如くにして庶民自らは、其の意見に從つて何うと云ふ事はない、飽くまで他の爲めに支配せられて居らなければならぬと云ふのであります、其の點に於て自由黨とは全く其の見解を異にして居ります、即ち自由黨は凡ての人に對して均等に機會を認めます、保守黨の最上政策が自由なくして『喰はせる丈け』の政策であるのに對して、自由黨の政策は食物なくして自由の有る政策であると言はれて居ります。

ヂスレリー氏の保健法案や住宅案や若くは工場監督案は、恐らく保守主義の好例と觀て差支ない、然し夫等の法案に示された市民權の擁護は、從來の保守黨の立場からは殆ど辯護し惡いものであります、ソレはコブデン、ブライト氏等の意見よりも遙か社會主義に傾いた――寧ろグラッドストーン氏に近寄つたものであります、言ひ換へると、保守黨の政策は既にヂスレリー氏の提起した各種の法案に於て、龜裂を生じたものと解しなければなりませぬ、而も此の龜裂たるや、相當の歴史があるのであります、抑もランドルス、チャーチル卿の保守的民衆趣味から、其の建設的方面に於ては、成るほど好個の保守的政策でありながら、他面民衆的の部面に在つては、却て皮肉なる臨機應變主義の繼續であつたと言はれて居ります、そしてソレがチェンバーレン氏に至つて愈大龜裂に陷つたのであります、彼等は到頭矛盾と撞着とを免れませぬのでした、彼等はソレでも尚は且つ種々の社會政策を約して、所謂勞働者の味方たることを吹聽する事もあります、然しソレさへ最早や確固たる信念から出た挨拶ではなくて、唯理由もなく不承々々に遣る丈けの事に過ぎませぬ。

更に注意しなければならぬ事は、失業者に對するバルフォアー氏の演説である――と、保守黨批難者と言はんより寧ろ保守黨と勞働者との親和を否認しようとする批評家は、氏の演説を、看過しませんでした――ソレは實に正直なものである、少くも我等は氏の其の演説に依つて、全然態に對する結論を得るのである――と、彼等が然う云ふ前置きをして、さて引用したバルフォアー氏の所論なるものは、大體斯うであります――或議員達は議會自ら失業者の所要に適應すべき方策を案出し得るかのやうに思つて居るかも知れない、又議會は是れまでも斯かる事を爲し得たと思つて居る人があるかも知れない、然し自分は決して然うでないと考へる、六百七十人の議員は假令公事に向つて獻身的ではあつても、指導なしに非常の困難を伴ふ問題に對して、容易に意見の一致を見るものではない、又ソレを解決し得るものでもない、イヤ現在の議院では、彼等は却つて東西論戰の失業者の利害とは、其の少からず隔離れたものに對して、其の精力を捧ぐるであらうと思ふ、――要するに批評家に言はせると、バルフォアー氏は失業問題なんぞは、勞働者自身に解決さるべきであると云ふ事を諷示したものであります、そしてソレは豫て勞働者の味方であり、各種勞働法規の制定に盡力をして居ると云ふ保守黨の吹聽を裏切るものと云ふのであります。